

自己調整力を高める放送学習と自由進度学習による実践

さいたま市立大宮南小学校 教諭 石川秀治

1 主題設定の理由

急激に変化する予測困難な時代において、一人一人の学習者が自分のよさや可能性を発揮して自分らしく生きていくため、自分の頭で考えることや、多様な他者と協働し、納得解を生み出すことが強く求められている。

教育番組の活用と自由進度学習を組み合わせることで、自己調整しながら学ぶ学習者の育成を目指し、主題を設定した。

2 研究内容

与えられる学びから、自分でつくり出す学びへと変換し、自分らしく学ぶことや、他者と協力し、学びを広げたり深めたりできる力を育成するため、放送学習と自由進度学習を組み合わせた実践を小学校5学年と6学年の社会科で行った。

共に、小単元の導入で学校放送番組を活用して単元の概要をつかみ、学習問題を立てる。その後、単元内自由進度学習を行い、単元後半で伝え合いなどのアウトプットをしてまとめを行う、一斉→単元内自由進度学習→一斉という進め方をした。

- ①単元導入で番組を一斉視聴することにより、その後の学習活動にどのような効果があるのか。
- ②放送学習と自由進度学習を組み合わせることにより、学習者は自己調整力を高めることができるか。

以上のことを、実践をもとに報告する。

3 研究実践

(1) 小学校5学年「ズームジャパン」の活用

①単元の導入において番組を一斉視聴する

- ・単元の学習の見通しをもつ
- ・学習者の認識を同じ土台にのせる
- ・視聴後伝え合うことで、大事なポイントの確認や、新たな視点、疑問をもつ



②自己調整しながら学習を進める

- ・学習計画を立てる

- ・学習の形態とまとめ方を選択し、単元内自由進度学習を行う
- ・成果物を伝え合い、学びを深める
- ・自分の学びをふり返る

③自分のペースで番組を活用する

- ・番組を繰り返し視聴して確認する
- ・NHK クリップ動画を資料として活用する

(2) 小学校6学年「社会にドキリ」「歴史にドキリ」の活用

学習の進め方は5学年の「ズームジャパン」と同じで、一斉→単元内自由進度学習→一斉で行った。学習者にとって2年目ということもあり、いくつか改善を図った。

- ・小単元の学習計画表にルーブリックを掲載し、自分の学習を客観的に意識できるようにする
- ・まとめの段階の「伝え合い」のバリエーションを増やす

他には、どのように番組を選択して視聴するか、板書の在り方、教師の役割、学習者がマンネリを感じない単元計画などを意識して行った。以上について、実践報告でお伝えできればと考えている。

4 成果と課題

成果 主なものとして以下のものがある

○社会科好きの学習者の増加

【市学習状況調査より】※R7はこれから(1月)実施

年度	社会科の学習は好きですか(本校)	社会科の学習は好きですか(市)
R5(4学年)	75.5	75.0
R6(5学年)	85.7	79.0

○学習の満足度と自己調整力の向上

【例：「大陸に学んだ国づくり」自己評価結果(5段階)】

項目(簡略)	平均点
1 学習計画と進行	4.6
2 資料の比較・関連づけ	4.6
3 学び合いの活用	4.7
4 図や絵の活用によるまとめ	4.65
5 内容理解	4.7

課題

- ・短い小単元の単元計画の立て方と進め方
- ・番組活用における学習内容のおさえ方